

# 勤 喜 び の 県 内 在 住 者

五等双光旭日章

井 昭二氏



次長、県民生活局長、商工労働部長などを歴任。三十年以上にわたり地方自治の発展に貢献した。退職後も県民スポーツ事業団専務理事、山梨県信用保証協会専

勲五等双光旭日章

岡 光義氏



「三十九年間、地域住民の生命と暮らしを守る職務

に専念したことが認められて光栄」と喜ぶ。一九五〇年に消防本部に入り、消防正監となつて八九年に退職した。忘れられないのは、七四、七五年にかけ一年で約二百件の連続放火があつたこと。「不眠不休の日々

勲五等双光旭日章

上島 行夫氏



「一九四九年に高校教師となり、計九十年間にわたつて

塩山商、日川、甲府南の校長を歴任した。高度成長を経て進学率が上昇、生徒が多様化した時代に、個々の能力に応じた効果的な授業を推進。また受験勉強だけに偏らないバランスのとれた人格形成を目指し、勉学

勲五等双光旭日章

石川 彰造氏



「成すべきことを満足にしていなのに胸の痛み思

い「謙遜しながらも支えてくれた多くの人たちと喜びを分かち合いたい」と語る。「戦後の荒廃した国土を緑豊かな未来に」との使命感で、緑化活動に携わつて約半世紀。富士緑化社長を務める一方で、日本造

勲四等瑞宝章

小田切 昭三氏



「一九四五年に県庁入り。総務部総務課長や教育次

長、企画管理局長を経て、八四年から一年間、出納長を務めた。かいじ国体の準備にかかわってきた経験や行政手腕を買われ、出納長退任後も理事として在職し、八六年のかいじ国体を成功に導いた。「半世紀に

勲五等瑞宝章

川 国夫氏



「長年携わつた商工労働部での仕事が思い出深い。受章は支えてくれた周りの人のおかげ。感謝の気持ちでいっぱい」と謙虚に話す。

勲五等瑞宝章

鈴木 武氏



「受章は先輩、同僚、後輩の指導や力添えによるも

の。私が一人ではいたが支えられて。一九九一年から九五年まで県建設業協会甲府支部長、九三年から昨年五月まで同協会副会長を務め建築設計業界の発展に尽力した。九一年秋には黄綬褒章

勲五等瑞宝章

川手 薫氏



「小児まひの後遺症で両足が不自由ながら、約四十年

にわたり小児まひの子どもたちを治療。障害者の自立更生に関しても数々の業績を残した。元全国病院理学療法協会副会長。十年前にパーキンソン病を発病。現在は山梨パーキンソン友の会会長などを務める。「受

勲五等瑞宝章

加藤 幸正氏



「大した仕事はできなかったが受章をありがたく受

け止めている」と控えめに語る。一九四八年、旧西浜村役場入り。五五年に西浜、大風の旧一村が合併し足和田村が生まれてからも、七七年まで村役場に務めた。八六年からは、三期十二年にわたり足和田村長として

勲五等瑞宝章

笠井 保三氏



「身に余る光栄。思いがけない受章に驚いている。

多くのみなさんの支援、指導のおかげと喜びを語る。一九四二年、下郡町の古閑国民学校訓導として教師生活スタート。西八代郡内の小中学校や県教委に勤務し、六郷小学校を経て八一年に県教委教職員課長で退